

第2学年国語科学習指導案

日 時 平成20年10月17日(金) 授業Ⅱ

児 童 男子16名 女子13名 計29名

授業者 渡邊 奈穂子

- 1 単元名 だいじなところに 気をつけて よもう
教材名 「サンゴの海の生きものたち」

2 単元について

(1) 児童の実態

児童は、これまでに読むことの物語文の学習として、「ふきのとう」では、情景を想像しながら読み、役になりきって、音読を工夫してきた。「スイミー」では、登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読んできた。説明文の学習として、「たんぼぼのちえ」では、時間や順序を表す言葉に気を付けながら、文章を読み、たんぼぼが知恵を働かせている様子やそのわけについてまとめてきた。文章を読み進める際に、主語や述語に気を付けながら様子について書いてある文を探したり、文末表現に着目して、たんぼぼが知恵を働かせるわけを見つけたりする活動を行ってきた。しかし、様々な説明の中から、中心的な対象や事柄に着目して読み取ることが不十分な児童も見られる。

昨年度のCRTの結果から、「順序などを考えながら読むこと」はできていたが、「語句や表現に注意しながら読むこと」は十分に理解されていなかった。

7月に実施した国語科意識調査では、「国語の勉強が好きですか」の質問に、肯定的に答えている児童が多い。特に、「音読が好きですか」の質問に、概ねの児童が肯定的にとらえていることから、国語の学習に意欲的に取り組んでいこうとする姿勢も見られる。

既習内容の定着状況については、中、上位の児童は、順序などを考えながら、設問にも答えることができ、書かれている内容の大体を読み取っていた。低位の児童は、中心的な内容の大体を十分に理解していなかった。

語彙力については、個人差が大きい。文章の中に出てきた言葉を基に、自分の言葉で考えを発表できる児童と、文章の内容を読み取ることができず、言葉で表現できない児童がいる。

音読については、初見の文でも語や文をまとまりとして読むことができる児童がいる一方、拾い読みや分ち読みの児童もいる。

(2) 教材について

本教材は、サンゴのきれいな海の中で、生き物の違いに応じた関係について、順序立てて説明している文章であり、生き物に強く関心をもっている児童にとっては、興味深く学習を進めることができる内容である。しかし、これまでに読んできた説明文に比べ、説明がやや複雑になっている。説明に登場する生き物の数も多い。生き物相互の関係も、「共生」という内容的にやや難解な要素を含んでいる。その理解をより容易にするために、第一段落の「初め」に「たがいに、やくにたつようにかかわり合っ」がある。その記述に着目できれば、中心となる生き物と、その関係性が典型的な共生関係(相利共生)であることが理解しやすい。

文章構成は、「初め(☐話題提示)・中(☐イソギンチャクとクマノミとのかかわり合い・☐ホンソメワケベラと大きな魚とのかかわり合い)・終わり(☑まとめ)」である。

イソギンチャクとクマノミ、ホンソメワケベラと大きな魚が、お互いに守り合ったり、助け合ったりしながら生きている共生の世界が生き物の中にあることを知り、知識を獲得したり、読解力をつけたりするだけでなく、読むことを通して、心情的にも豊かになる教材である。

(3) 指導にあたって

書かれていることの大体を読み取り、その表現のしかたや書かれている順序を理解させたい。そのために、まず、内容から教材文を四つの大きなまとまりに分けさせ、文章のおおまかな構成をつかませる。本教材で述べられている事柄は、問いかけの文から、「生き物のかかわり合い」が書いてあることが分かる。それを正確に読み取るために、一つ一つの語句や表現に注意してサイドラインを引いたり、ノートに大事なことを書き込んだりしながら、内容の大体を読み取らせていきたい。

書かれている事柄の順序に従い、特徴を読み取った後で、それぞれの生き物がお互いにとって良いところを見つけ、「かかわり合い」をまとめていく。読み進める時には、文の主語や述語、文末表現に気を付けさせていきたい。また、「かかわり合い」をまとめる時には、書かれている事柄について、写真と照らし合わせ、ペープサートや動作化をする活動を取り入れて、内容を理解させる。

さらに、「生きものカード」を作ることを目的にすることで、意欲的な読みにつなげ、内容の大体を読み取る力を付けるとともに、他の生き物にも興味をもち、楽しんで読書をしようとする態度を育てていくことができると思う。

3 指導目標

【関心・意欲・態度】

- 海の生き物についての読み物に興味を持って読もうとしている。

【読むこと】

- 海の生き物の「かかわり合い」について、事柄の順序を考えながら読み取ることができる。
(読むこと イ)
- 語や文のまとまり、内容のまとまりを考えながら声に出して読むことができる。
(読むこと エ)

【言語事項】

- 片仮名を正しく読んだり書いたりすることができる。(言語事項 イ (ア))

4 単元指導計画 [全11時間]

段階	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準
つかむ	1	・教科書の写真を見ながら、海の中のイメージを広げる。 ・新出漢字や語句の確認をする。	・拡大した写真から、海の中のイメージを持たせる。 ・書き順を確認してから、漢字の練習をさせる。	・写真から想像を広げ、海の生き物について興味を持つようとしている。
	1	・教材文の範読後、初発の感想を発表する。	・初めて知ったこと、不思議に思ったことなどの感想を視点にして考えさせる。	・教材文を読み、初めて知ったことや不思議に思ったことなどの感想を持っている。
	1	・教材文のおおまかな内容を知り、学習のめあてを持つ。	・「かかわり合い」という問いかけの文から、学習のめあてを持つことができるようにさせる。	・全体が四つに分けられていることが分かり、内容に興味を持ち、進んで読もうとしている。
3				

ふかめる	1	・イソギンチャクとクマノミの体の特徴を読み取る。	・イソギンチャクとクマノミに分けて、サイドラインを引かせる。	・主語と述語の関係に気を付けながら、イソギンチャクとクマノミの体の特徴を読み取っている。
	1	・イソギンチャクとクマノミとのかかわり合いを読み取る。	・それぞれが互いにとって良いところがあることに着目させる。	・イソギンチャクとクマノミのかかわり合いについて、叙述に即して読み取っている。
	1 本時	・ホンソメワケベラと大きな魚とのかかわり合いを読み取る。	・それぞれが互いにとって良いところがあることに着目させる。	・ホンソメワケベラと大きな魚とのかかわり合いについて、叙述に即して読み取っている。
	1	・教材文の海の生き物について振り返る。	・海の生きものたちのかかわり合いを読み取ったことを基に、動作化させたり、説明させたりして確認する。	・語や文、内容のまとまりを考えながら、声に出して読み、海の生きものたちのかかわり合いを振り返る。
4				
まとめる	2	・自分の選んだ海の生き物について書いてある本を読む。	・海の生き物について、「名前」「体の特徴」などに着目して、図鑑や本で調べさせる。	・片仮名を正しく読み、海の生き物についての読み物に興味を持って読もうとしている。
	1	・調べたことをもとに、「生きものカード」にまとめる。	・特徴を文と絵のカードに書かせる。(事柄ごとに短くまとめた文)	・片仮名で書く語を文や文章の中で使い、生き物について分かったことを簡単な組み立てで書いている。
	1	・グループの友だちとできたカードを紹介し合う。	・できたカードを読み合わせ、友だちの良いところに気付かせる。	・友だちの良いところを見つけようとしている。
4				

5 本時の指導

(1) 目標

ホンソメワケベラと大きな魚とのかかわり合いを読み取ることができる。

(2) 授業の視点

- ・文末表現から理由を説明する文を確認する。
- ・ホンソメワケベラの特徴や大きな魚とのかかわり合いを読み取りやすくするために、写真やペープサートを活用する。

(3) 展開

段階	学 習 活 動	教師の働きかけ (・) 児童の反応 (→)	指導上の留意点
つかむ 8分	1 前時の学習を振り返る。 2 学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ホンソメワケベラと大きな魚は、どんなかかわり合いをしているのでしょうか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・イソギンチャクとクマノミは、どんなかかわり合いをしていましたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イソギンチャクとクマノミのかかわり合いについて、掲示を使って振り返らせる。 ・ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合い (互いの利点) に着目しながら、読み取っていくことを確認する。
ふかめる 22分	3 学習場面を音読する。 (段落⑦⑧⑨の一斉音読) 4 詳しく読み取る。 (1) ホンソメワケベラの体の特徴を読み取り、サイドラインを引く。 (2) ホンソメワケベラと大きな魚とのかかわり合いを読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「、」や「。」に気を付けて、はっきり読みましょう。 ・ホンソメワケベラは、どんな魚ですか。 →明るい青色の体 黒いすじが一本 長さは十二センチメートルほど ・写真の小さな魚は、何ですか。 →ホンソメワケベラ。 ・このホンソメワケベラは、何をしているのでしょうか。 →大きな魚の口の中に入っている。 ・大きな魚は、ホンソメワケベラを食べますか。 →食べません。 ・なぜ、ホンソメワケベラを大きな魚は食べないのでしょうか、理由が分かるところにサイドラインを引きましょう。 →大きな魚たちは、体や口の中についた虫を、ホンソメワケベラがとって、きれいにそうじしてくれるのを知っているからです。 ・ホンソメワケベラは、そうじだけをしているのですか。 →違います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習範囲を確認し、語や文のまともに気を付けて音読させる。 ・ホンソメワケベラの特徴を、写真と照らし合わせて確認する。 ・写真と照らし合わせながら、前後の状況を比べることによって、「でも、～ません」の文の様子に気付かせる。 ・サイドラインが引けない児童には、文末表現「～からです。」に着目させる。 ・ホンソメワケベラと一緒にいて、大きな魚にとって良いことを視覚的に押さえさせる。 ・写真と照らし合わせながら、前後の状況を比べることによって、「でも、ただ～ではありません。」の文の様子に気付かせる。

ふかめる 22分		<ul style="list-style-type: none"> ・ホンソメワケベラにとって良いことは何でしょう、分かるところにサイドラインを引きましょう。 →掃除をして取った虫が、ホンソメワケベラの食べ物になるのです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイドラインが引けない児童には、文末表現「～のです。」に着目させる。 ・大きな魚と一緒にいて、ホンソメワケベラにとって良いことを視覚的に押さえさせる。
まとめる	5 学習のまとめを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて、まとめましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書をもとに、ホンソメワケベラと大きな魚たちは、互いにかかわり合いがあることを確認し、自分の言葉でまとめさせる。
	6 まとめの音読をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを考えながら読みましょう。 	
15分	7 次時の学習について確認する。		<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習の振り返りをさせ、次時の学習への意欲を持たせたい。

ホンソメワケベラと大きな魚は、かかわり合っている。
 大きな魚は、(ホンソメワケベラにそうじしてもらう。)
 ホンソメワケベラは、(大きな魚についている虫が食べものになる。)

読むことの具体的評価規準

A 十分満足	B おおむね満足	C 努力を要する子への支援
ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いについて、叙述に即して読み取り、自分なりの言葉でまとめている。	ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて、叙述に即して読み取っている。	教科書のサイドラインに着目させ、それぞれの生き物にとって良いことを確かめさせる。

(4) 板書計画

大きな魚

大きな魚

・ そうじしてもらう。
・ きれいになる。

⇔

ホンソメワケベラ

・ そうじする。
・ 虫が食べものになる。

大きな魚

・ 明るい青色
・ くろいすじ
・ 十二センチメートル

サンゴの海の生きものたち
もとかわ たつお

ホンソメワケベラと大きな魚は、どんなにかかわり合いをしているのでしょうか。